



●学長 芝井 敬司

法政大学・明治大学・関西大学

3大学による 連携協力協定締結までの 経緯と今後について

大学創設の起源を同じくする3大学それぞれの理念を生かして、優れた人材育成と真理を探究し、社会発展に寄与していきたい

◆連携協力協定の締結に至る経緯

2016年10月に学長に就任し、同年11月の創立130周年記念式典に向け、本学の歴史を読み直す機会がありました。その時に、法政大学、明治大学、関西大学の3大学が創設時から多くの共通点を有していたということ強く意識しました。

そこで、田中優子法政大学総長、土屋恵一郎明治大学長のところに就任のご挨拶に伺った際に、この3つの大学で連携協力し、さまざまな課題に向き合い、解決するために努力してみませんかというお話をさせていただきました。田中先生も土屋先生も即座にご賛同いただき、その後、それぞれの大学・部署における検討を経て、無事に機関決定を済ませ、協定調印に至りました。

◆3大学はいずれも ボアソナードの弟子達が創った法学校

私立大学の原点は建学の精神にあると私は認識しています。建学の精神には創設者の魂が込められています。これを土台にそれぞれの大学が発展し、大学の独自性を形成し、特色をつくってきました。

法政、明治、関西大学の3大学は、ギュスターヴ・エミール・ボアソナードの薫陶を受けた、若き法曹家たちが中心になって、いずれも1880年代に創設された法律学校に起源を持っています。

フランス人法学者でパリ大学の教授であったボアソナードを招請したのは、時の司法卿だった江藤新平でした。江藤新平は1871(明治4)年9月に司法省明法寮という、司法官を養成するための学校を設置します。後に司法省法学校となったこの学校が、ボアソナードとやがて若き法曹家になる大学創設者たちとの主な接点でした。

それゆえ3大学は他の私立大学とは、多少異なった性格を持っています。福沢諭吉、大隈重信、新島襄といった、1人の著名な創立者の思想に従って設立された大学ではありません。また、キリスト教のミッションや仏教の宗派を背景にして創設された大学でも、あるいは、熱心な教育家が創設し、創業者の家系の者が学校経営にあたる法人でもありません。3大学は複数の創設者の協力によって設置・運営され、基本的に市民主義と世俗主義を特長に発展してきました。

明治大学の「権利自由、独立自治」、法政大学の「自由と進歩」、関西大学の「正義を権力より護れ」と表現される建学の理念・学風には、国家主義あるいは権威主義的な支配を嫌い、個人と自由を尊重し、平和で公正な法の支配をこの社会に確立したいという思いと姿勢が反映されています。

◆共通課題に対して連携・協力。 教育界全体に貢献

3大学の卒業生の数はいずれも50万人前後に達し、現在、それぞれ文理にわたる10以上の学部と大学院を有し、所属する学生数は約3万人、6000人以上の入学生定員を持っています。

このように有数の規模を持つ私立総合大学として、教育、研究、社会連携、国際活動、大学運営をはじめとして多くの共通課題を抱えています。3大学で情報交換をしながら、共同の取り組みを進めていくことは、日本の高等教育全体にとっても、大きな意義を持つものになるのではないかと考えています。

一例を挙げれば、国内留学の実現に着手したいと考えています。日本の大学には、学生をあまり外に出そうとしないという伝統があったように思います。ヨーロッパにはエラスムス計画があり、学生がEU内のさまざまな大学に出掛け、新たな学びの機会、新たな友や先生、あるいは教育プログラムと出会うことを保証できる計画を積極的に進め、大きな成果を上げています。今回の協定を契機に、ぜひ3大学が協力して国内留学の制度を整え、日本国内の学生のモビリティを高めていきたい。それぞれの大学の理念・特色を生かした大学間連携活動を通じて、優れた人材の育成と真理の探求という大学本来の使命を実現し、地域社会ひいては国際社会の発展に寄与していきたいと思っています。

